歴史点描 44　　網干浜田　義徳院の石碑

浜田の義徳院は臨済宗妙心寺派の尼寺で、龍門寺を開山し不生禅を説かれた盤珪国師の生地である。国師は元和8年(1622)3月8日に生まれた。父は道節といい、元は三好氏で阿波の国の藩医であったが、阿波を離れて備中におもむき、国師の母となる野口氏の娘を娶った。その後播州の片村に居た時に浜田の医師であった菅原氏の跡継ぎが亡くなり、下村の大庄屋の中堀俊恒の計らいでこれを継いだので、国師は菅原氏ということになる。道節の3男であったらしい。姉妹は3人である。

義徳院は貞享4年(1687)、国師の後を追って出家してこの地で入寂した母妙節尼を開基として、妹の寿清尼によって創建された。当時は義徳庵といったが、戦後法律によって義徳院となった。境内には今でも国師が使ったとされる初湯の井戸があり、その西北に誕生の地を表す石碑がある。碑は東面していて正面に「盤珪国師誕生之地」と刻し、南側面にはかなり風化しているが、「延享改元甲子暮春劣孫某等聚小石子拝書妙経一部　以埋此地且建石而示師降誕之遺蹤於後世也」(延享改元甲子の暮春、劣孫某等小石子を聚め、妙経一部を拝書し、以て此の地に埋め、且つ石を建てて師の降誕の遺蹤中を後世に示すなり。碑文と読み下しは赤尾龍治編『盤珪国師全集』による) と刻され、 西面には「義徳庵」とある。

初湯の井戸は「盤珪国師　初湯之井」と北向きに刻され、これもかなり風化していて読みにくい字もあるが、東面に「〇〇人　龍門寺　加集氏　佐々木氏　北山氏　稲田氏　廣田氏　三浦氏　清土氏　〇庵代」 と建立にあたったと思われる人々の氏が刻まれている。年代については書かれていないのでよくわからない。

延享改元とは寛保 4 年の 2 月に改元されたことで、西暦では 1744 年にあたる。この石碑建立については、2 年前の寛保 2 年 9 月が国師の 50 回忌だったことと何らかの関係があるのかもしれない。石碑を建てた「劣孫」については史料がなく、よく分からないが、龍門寺では、寛保 3 年に 6 世の中厳和尚が亡くなり、7 世の独雄和尚が継いだころなので、おそらくその頃の龍門寺の関係者ではないだろうか。

義徳院は先代のご住職が数年前に亡くなられてからは門が閉ざされ、庭などは龍門寺が管理されている。盤珪国師に関する多くの資料も所蔵されているとのことで、もし機会があればぜひ拝見したいものである。

網干歴史講座会員　浜田　中川千里

・　義徳院山門

・　初湯の井戸北面

・　盤珪国師誕生の地石碑東面